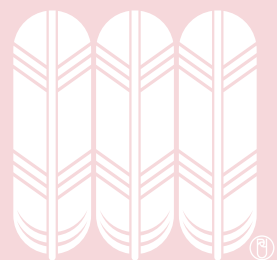




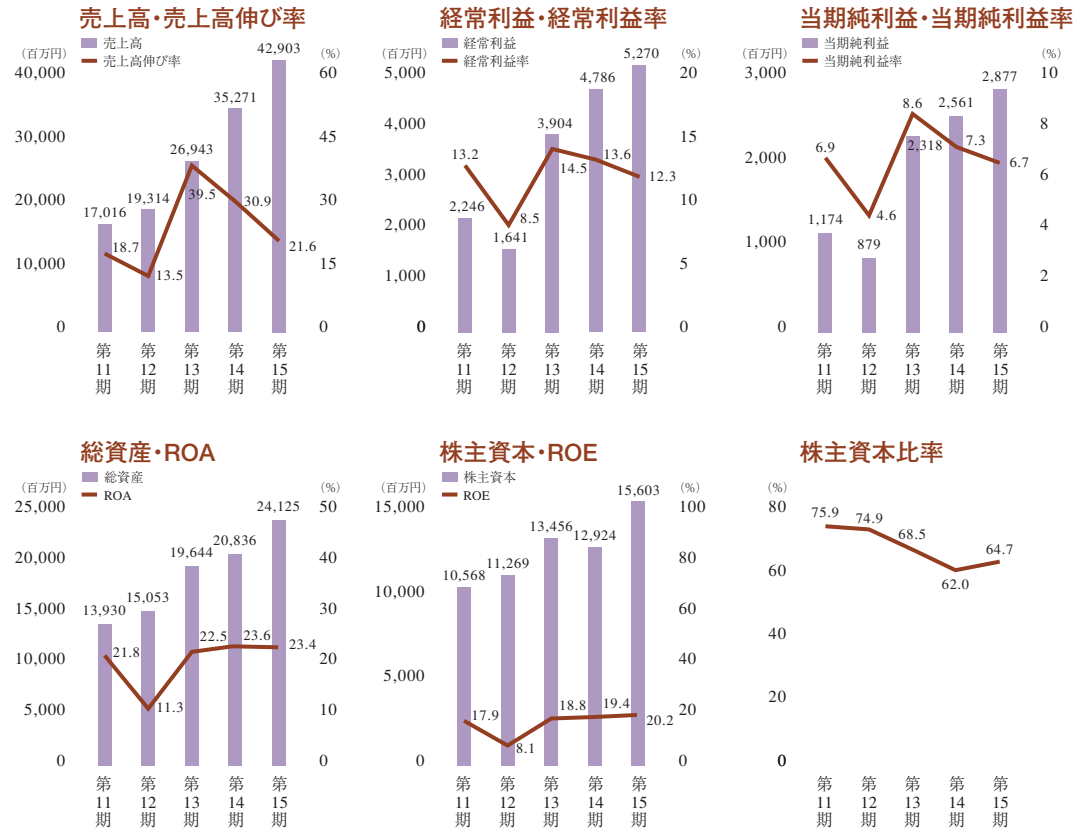
UNITED ARROWS LTD.

2003.4.1～2004.3.31

第15期 事業報告書



東矢通信 第九卷



(単位：百万円)

区 分	期 別	第13期 2002年3月期	第14期 2003年3月期	第15期(当期) 2004年3月期
売上高		26,943	35,271	42,903
営業利益		3,965	4,824	5,241
経常利益		3,904	4,786	5,270
当期純利益		2,318	2,561	2,877
総資産		19,644	20,836	24,125
株主資本		13,456	12,924	15,603
株主資本比率(%)		68.5	62.0	64.7
1株当たり当期純利益(円)		194.41	215.01	258.97
1株当たり株主資本(円)		1,128.41	1,178.30	1,416.68



UNITED ARROWS LTD.

UA理念
(Philosophy of UNITED ARROWS Group)

「MAKE YOUR REAL STYLE」

私たちは、新しい「日本の生活・文化の規範」
(THE STANDARDS OF JAPANESE STYLE)
となる価値観を創造し続ける集団です。

株主の皆様におかれましては、ますます
ご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別なご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。
ここに、当社第15期(2003年4月1日~2004年3月31日)の
営業の概況と決算につきましてご報告いたします。
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬ
ご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2004年6月

代表取締役会長 重松 理

To Our Shareholders

社長交代について

すでに発表がありましたように、2004年6月28日開催の定時株主総会後の取締役会にて、いままで副社長であった岩城が代表取締役社長に、私、重松が代表取締役会長に選任され就任いたしました。今後は岩城が「COO」の立場から営業方針の提示と具体的な業務執行を担当し、私は「CEO」の立場から経営方針、そして長期ビジョンの提示をいたします。当社は今後、この新体制のもとで長期的な安定成長につながる“盤石な経営基盤”を築き上げてまいります。

新体制となりましても、当社に変わらぬご支持を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

第15期についてお聞かせください

国内経済全般を振り返ると、個人消費にはまだ若干の出遅れ感がありますが、大企業を中心とした収益の改善は中小企業にまで拡がり、徐々に明るい兆しが見え始めた1年であったと感じています。しかし、どのような景気局面においても、「勝ち組」・「負け組」は必ず存在します。当社は、前期においても「勝ち組」



となるべく、既存事業強化、新規事業の育成、構造改革の積極的な推進を行ってきました。その結果、ほぼ計画通り順調に業績を伸長させることができました。

前期は、2001年春の売上回復から3年が経過し、「売上の再拡大局面」から、目指す「安定成長局面」へ徐々に移行を果たすことができた1年でした。前述した取り組みのすべては、将来の安定成長へ向けた布石であり、来期以降更に成果が顕在化してくると考えています。当社が真の「勝ち組」となり、社会と共に発展していくためには、短期的な成長や利益のみを追求するのではなく、構造改革や新規事業開発を通して長期的な拡大・安定成長を目指していかなくてはなりません。内部の「仕組み」を改革し、同時に「将

来の当社を支える事業」を育てることが、今の局面では非常に重要なことであると捉えています。

前期の業績は順調に推移しましたが、現在、認識している問題点や課題はありますか？

前期は確かに「業績」という面においては、順調に推移しました。しかし、会社の内部に目を向けると、将来に向けて解決しなければならぬ課題がまだ多く存在しています。

これらの課題解決に向けた「構造改革」については、課題の抽出と優先順位付け、という従来の取り組みから一歩進み、前期より実際の業務フローへの落とし込みを開始しています。販売教育体制の確立や新管理会計の策定等、落とし込みが完了



し、実稼働を開始した業務フローも多々あります。しかし一方で事業構造のコアである商品系の業務フローについては、個々の業務単位での改革は順調に進捗しているものの、業務体系が非常に複雑なため、それぞれを有機的に連動させるまでには更なる調整が必要です。当期中にはこれらの調整に目処をつけ、来期には構造改革の具現化を果たしたいと考えています。

4月より新たな部署が立ち上がりましたが、これらの部署は今後どのような働きをしていくのですか？

2004年4月より「総合企画情報室」と「研究開発グループ」を立ち上げました。「総合企画情報室」は、素材やデザイン・国内外トレンド等の情報収集・集約を行い、全社を横断する情報発信の仕組みを新たに構築することを目的としています。一方の「研究開発グループ」は、商品開発の支援や商品企画精度等の更なる向上を目指すことを目的としています。また同グループは、社会貢献を通じて利他の心を持ち続ける企業風土の醸成や、企業文化の創造も推進します。

これら2つの新たな部署の設立は、当社の目指す「“アパレル（製造）”と“小売”が高次元で融合する“スーパーSPA”」の具現化へ大きな前進となると確信しています。

当期の出店計画を教えてください

ここ数年、当社は毎年10店舗強の出店を行ってきました。当期につきましても、例年と同数程度の出店をすることができると考えています。

ユニテッドアローズ（以下UA）業態は、西東京エリアをカバーする店舗として、業態23店舗目となる立

川店の出店をこの秋に予定しています。当社ではストアロイヤリティ維持のため、業態に応じた適正店舗数を設けていますが、立川店の出店によりUA業態は上限の“24店舗”まであと1店舗というところまで来ました。残る新店の計画はもちろん、今後も積極的に既存店の増床を行い、お客様の幅広いご要望にお応えすることで安定成長を目指します。

グリーンレーベル リラクシング



（以下GLR）業態は、当期についても4~5店舗の新規出店を計画しており、期末時点では総店舗数が20店舗を超える予定です。また、今秋はオープン5年目のGLR新宿店を全面リニューアルします。GLR業態は今期以降も「60店舗構想」の実現に向け、積極的に出店を行う予定です。

クロムハーツ（以下CH）業態は、2004年4月にCH TOKYO別館であるCH TOKYO ANNEXに大幅な改装を施し、名称もCH HARAJUKUと改め

ました。CH HARAJUKUは、展開商材も大幅に拡充し、今後は開示上も独立した1店舗としての取り扱いをします。

その他の事業としては、ウイメンズを取り扱うスモールビジネスユニットのアナザーエディションが、新宿駅ビルの「マイシティ新宿」内に6店舗目を、またウイメンズのUAラボである「ドゥローワー」が、2号店を日本橋地区にそれぞれ今秋に出店します。更に、当期はUAラボから数店舗の出店を予定しています。

To Our Shareholders

当社は、前期末時点で10の事業、56店舗を展開するまでの企業となりました。公開直前期である99年3月期末は、UA業態17店舗とUAラボ1店舗のみの18店舗であったことを考えると、この5年で事業数は約10倍、店舗数は約3倍に拡大したことになります。安定的な経営基盤を確保するため、積極的に推進してきました「多事業軸化戦略」によって、UA・GLR・CHの主力3業態は安定拡大を続けるとともに、小型事業も年々著しい成長を遂げています。

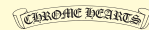
今後も長期的な視野から構造改革を積極的に推進し、安定成長を図ることで株主の皆様のご期待にお応えしていきたいと思っております。

Business News

ユナイテッドアローズでは、現在3つの主力事業、2つのスモールビジネスユニット、そして5つのUAラボ事業を展開しており、2004年3月末の店舗数は56店舗となります。各事業ともそれぞれ明快なコンセプト、そして異なったテイストを持ち、すべての事業で着実にファンが拡大しています。今回のビジネスニュースでは、前半で当社が展開する小売全事業をご紹介させていただき、後半では当下期の出店・改装・増床につきましてご紹介させていただきます。

ユナイテッドアローズの小売全事業／56店舗

主力事業



ユナイテッドアローズ／22店舗

年齢軸で対象を制限せず、ファッション感覚が高くファッションコミットメントの高い方を対象としている。商品はUAトラッドマインドを基本ベースに、国内外から調達したメンズカジュアル・ドレスとウィメンズカジュアル・ドレス及び服飾・生活雑貨を扱う。

ユナイテッドアローズ グリーンレーベル リラクシング／18店舗

ヤング層から高感度ファミリー層までを中心に、あらゆる年代をターゲットとし、ビジネスパーソン向けのスーツからカジュアルウェア、更にはキッズ・マタニティ・生活雑貨やオモチャ類までも揃えるライフスタイル提案型ショップ。

クロムハーツ／2店舗

米国クロムハーツ社の商品のみを展開するブランドショップ。アクセサリ全般からレザーウェア・バッグ、小物等の取り扱いや、家具・ホームウェアまでのライフスタイル全般アイテムを展開。

スモールビジネスユニット (S.B.U.)



アナザーエディション／5店舗

レディスヤング・キャリア・ヤングミセスを対象とし、商品は“My favorite things”をコンセプトに、旬なアイテムからベーシックなものまでエッジの利いたオリジナルアイテムと国内外からセレクトしたアイテムを編集・提案。

ザソブリンハウス／1店舗

装いへのこだわりの高い20代半ばから50代をターゲットとし、商品はオリジナルのメンズドレスレーベルの中でも最高峰の「ソブリン」と、海外の名立たるメンズブランドにより構成。クロージングからカジュアル、雑貨までフルラインの大人の男性に向けたショップ。

UAラボ



ディストリクト ユナイテッドアローズ／1店舗

ファッション感覚が高く、装いにこだわりをもつ男性を対象に、オリジナルの「DISTRICT」レーベルから国内外の仕入商品により構成されるメンズショップ。同店のみの取り扱いとなる個性豊かな商品を揃える。

チェンジズ ユナイテッドアローズ／2店舗

毎日を魅力的に過ごすために「女性であること」と「おしゃれすること」を上手に楽しんでいる女性を対象とし、厳選された国内外のデザイナーコレクションとオリジナルアイテムを取り揃える。洋服だけでなく、小物やバッグ・靴・アクセサリやアロマなど一人一人が自分らしいスタイルを楽しめるアイテムをトータルで扱う。

時しらず／1店舗

ブランドネームにこだわらず、洋服が好きな層をターゲットに、ジャケットを中心に展開。細かいディテールよりも生地や縫製にこだわり、長く着られる物を作ることに重きを置いている。

オデット エ オディール

ユナイテッドアローズ／3店舗

20代半ば以上のおしゃれ感度の高い層、セレクトショップで洋服を選ぶキャリア層を対象とするオデット エ オディール、自主編集型スタイルでカジュアルマインドのベビータドロの2つのオリジナルブランドを主体にフェミニンで上質なバンブスからカジュアルまで、女性のもつ優しさど知的で活発な両面を表現したシューズ、バッグ・雑貨等を取り揃える。中心となるシューズは、上質な素材を使用し履き心地の良さを第一に考えたデザインとパターンを兼ね備える。

ドゥローワー／1店舗

「21世紀の母娘」、「ファッション界のオピニオンリーダー」層を対象とし、オリジナル：仕入れ＝7：3の割合で、世代を超えて支持される商品を取り揃える。ほんの少しのモード（最先端の流行）と、上質なスタンダード（どの時代にも着たいと思うベーシック）アイテムで構成。

出店・改装・増床トピックス

当下半期は、UA、GLRの主力業態につきまして、4店舗の新規出店と2店舗の増床を行いました。

●ユナイテッドアローズ業態

ユナイテッドアローズ（以下UA）業態では、当下半期に1店舗（UA日本橋店）の新規出店と2店舗（ユナイテッドアローズ ブルーレーベルストア 原宿店、UA梅田店）の増床を行いました。UA業態では、この秋に23店舗目となるUA立川店の出店を予定しており、「店舗数制限戦略」に基づく適正店舗数である“24店舗”まで残り1店舗となりました。同業態は、残る1店舗の出店候補地を慎重に検討するとともに、今後も「店舗の大型化戦略」に基づいた既存店舗の大型化を積極的に推進していきます。



2002年4月にオープンした新商業施設、E-ma（イーマ）の1～2階でメゾネット展開しておりますUA梅田店は、2004年2月に1階メンズフロアを増床いたしました。この増床により商品展開が更に拡充され、いままでも以上に幅広い年齢層のお客様にご満足いただける売場となりました。



UA原宿本店リニューアルプロジェクトの一環として、2003年11月に2階部分を増床しリニューアルオープンしたユナイテッドアローズ ブルーレーベルストア 原宿店。全面リニューアルした内装は、ブルーレーベルのテーマである「BEAUTY&YOUTH」をベースとした「モダンジャパニーズアールデコ」スタイルで統一し、より大人のお客様へ向けた商材を取り揃えます。



新商業施設「COREDO日本橋」に2004年3月に新規オープンしたUA日本橋店。金融の中核機関を擁するビジネス街でありながら、老舗百貨店が軒を連ねる活動的で成熟した街、日本橋にふさわしい落ち着いた内装と地域性に応じた品揃えでお客様をお迎えいたします。

●ユナイテッドアローズ グリーンレーベル リラクシング業態
ユナイテッドアローズ グリーンレーベル リラクシング（以下GLR）業態は、当下半期には3店舗の新規出店を行い、3月末では18店舗体制となりました。GLR業態は、2011年3月期60店舗体制構築の実現へ向け、今後も新規出店を積極的に推進していきます。



オフィス、商業、文化、そして自然までもが一体化した大型複合施設「なんばパークス」に2003年10月オープンしたGLR難波店。「キタの梅田」と並ぶ西日本の商業・文化集積地域である「難波地区」で同店は、街と人をつなぐ掛け橋となるお店を目指します。



再開発により魅力ある街区の形成が進む北千住駅周辺。その北千住駅に直結する商業施設「ルミネ北千住店」に2004年2月にオープンしたGLR北千住店。同店は、「居心地のよさ」を更に追求した新たな内装コンセプトでお客様をお迎えいたします。



リニューアルした静岡駅ビル「パルシェ」の1階に2004年3月にオープンしたGLR静岡店。静岡駅コンコースに直結した同店は、集客力のある立地を活かし、「世代を超えてお買い物を楽しんでいただける商品構成と接客サービスの提案」をしております。

業態別売上高DATA（第15期）

	小売全店売上高前期比(%)	既存店売上高前期比(%)
●UA業態	112.3	109.1
●GLR業態	144.7	103.7
●CH業態	101.7	102.5
●S.B.U.及びUAラボ	192.7	116.5

ご近所の商店にあふれる喜び

■クリエイティブディレクター 栗野 宏文



COLUMN

私は近所の商店で食料品を買うのが好きだ。

幸い隣の駅には歴史の在る市場のような一角があり、例えばその中のサカナ屋さん、貝屋さん、佃煮屋さんなどからはあきらかに時の厚みを感じる。働いている人達が皆同じような顔付きなのも面白いのだが、なんのことはない、それは親子や親戚で店舗を運営しているからである。

通常は買い物客で混雑しているそのエリアに昼の早い時間に行ったことがあるが、お店の人達がリラックスした空気の中で働いており、何時も良い愛想が更に良くなっていた。鶏肉専門店のオヤジさんは自店のオリジナル商品の作り方を解説してくれ、佃煮屋の若主人は素材に対する独特のこだわりを語る。その口調は二人とも実に楽しそうだ。

その市場の中ではスケールが小ぶりなお肉屋さんは一見あまりショウバイ気がなさそうで、いささか心配になったりもするのだが、お客さんに対する細やかな心遣い故に確実な顧客を得ているらしい現場を目撃して安心した。

「イヤー奥さん、この牛はモノは良いんだけどちょっとアブラの部分が多いから、こっちの安いほうにしといたほうがカラダに良いよ」と言われた老婦人の納得ぶりが面白かった。単なる日常的な買い物がかげほど多彩な楽しさや教養に満ちたものであることに感謝し、このささやかな時間を持たたことに感謝し、なんだか大袈裟でなく「生きていて良かったなあ…」と呟く自分が居る。

何故こんな私事を書いたかと言えば、私をはじめとして全ての創業役員にとって、ここで述べたような「近所のちゃんとした八百屋さんや肉屋さん」こそがユナイテッドアローズの目指す姿であるからだ。そこには商売というクリックによるヒトとヒトのコミュニケーションがあり、創意工夫があり、絶えざる向上心がある。

私はこれこそがリテールビジネスの根幹であると信じているし、それを心から愛している。

UAの“根っこ”にあるもの

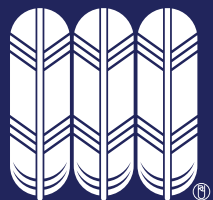
～理念の共有から始まる人財開発～

今回の事業報告書では、UAの根幹をなす企業理念と、その理念に基づいた私たちが理想とする“ヒト＝人財開発”について株主の皆様にご紹介いたします。UAの企業理念は、“UA理念” “UARルール” “UAスピリッツ”の3つの柱から成り立っており、ヒトを育てるという意味においても、これら3つの柱は、絶対に欠くことができない重要な私たちの源です。2003年度は、多事業軸化の積極推進、原宿本店の大改装等という、“モノ（商品）・ウツワ（店舗）”の強化に加え、“ヒト（接客・サービス）”についても着実に進化するべく歩みを進めた1年となりました。



UARルール
「店はお客様のためのにある」

THE PRINCIPLES OF
UNITED ARROWS LTD.



UAスピリッツ
プロフェッショナリズム

UA理念
「MAKE YOUR REAL STYLE」

私たちは、新しい「日本の生活・文化の規範」
(THE STANDARDS OF JAPANESE STYLE)
となる価値観を創造し続ける集団です。



UA理念とは、「UAが何のために存在するのか、社会に対してどのような貢献をしていくのか、私たちは何を指して働くのかを表すもの」であるとともに、「お客様と向き合う時や会社としての意思決定を行う時等、あらゆる場面において私たちの判断の拠り所」となる極めて重要なものです。一方で、この理念にはお客様に対するREAL STYLEの提供、つまり「お客様にとって本当のスタイルとは何なのか？」という問いかけと、「そのスタイルを見つけるために私たちはどんなお手伝いでもいたします」という意味も込められています。そしてそれは、「あなたはユニテッドアローズという会社で何をやる人なのか？」という私たち自身へのメッセージでもあります。

UAスピリッツとは、UAで働き、UA理念の実現を目指す私たちが共通に持ち合わせ、常に意識して行動につなげるための「魂（たましい）」です。目指すべき理想は「プロフェッショナル」。専門家気質（かたぎ）・プロ根性を持ち合わせ、5つのキーワード（5 SPIRITS）「情熱と挑戦」「革新と創造」「気づきと実行」「真心と感謝」そして「専門知識と機転」の実践を心がけています。

「お客様に喜んでいただき、お客様のお役に立ち、お客様に得していただき、お客様の要求を満たす」ことができ初めて私たちの仕事は完結します。UARルールとは、UA理念に書かれていることを実現するために、絶対に守らなければならないこと、言わば「掟（おきて）」のことです。これは、私たちの基本姿勢であるとともに、根幹をなす考え方で、「店はお客様のためにあり」、「お客様あってのUA」なのです。



“共”育体系の再構築～理念の共有から生まれるもの～

当社の“共”育体系は、全従業員を対象とした「東矢塾」として生まれ変わりました。当社の考える人財育成とは、教えることではなく、“共に育む”ことであるという考えから、教育ではなく“共”育と呼んでいます。

「東矢塾」では、理念体系の再確認を行い、会社と全従業員とのベクトルを合わせることを基本としています。なぜなら、UAの想いを正しく理解し、お客様にお伝えし、実践するという点において、この理念体系は、販売員のみならず商品を調達するスタッフ、管理部門のスタッフ、UAの全従業員にとって共通の、根幹をなす考え方だからです。「東矢塾」で行っていることは、すべてこの原理・原則と自らの行動との照らし合わせや振り返りという部分に集約されます。原理・原則に則って、本当にお客様の視点に立って行動できているかどうかを“共に

考え、共に育み、共に気づきの啓発を行う”ことが「東矢塾」の大きな役割なのです。

この2003年度にスタートした「東矢塾」では、現在、「プロ販売員育成」プログラムを中心として、店長や経営幹部を対象とした幹部育成プログラムや各店舗に配置されたセールスインストラクターの育成等をおこなっています。“共”育体制が整備されたことにより、店頭では、集合研修で学んだことを、徐々に店舗で実践できつつあります。更に前述のセールスインストラクターの存在により、OFF-JT（集合研修）からOJT（店舗内“共”育）への連動が根つき始め、集合研修では、カバーしきれない部分を補完できる体制ができつつあります。今後は、「東矢塾」という“共”育機能を1つのきっかけとして、従業員1人1人が、自ら、主体的に、学習する風土の醸成を目指していきます。

人事部 人財開発グループ アシスタントマネジャー 田島 文子



お客様の視点に立って「お客様に喜んでもらえることは何か」を考えると、自ずと行動が変わると思っています。自ら考え気づいたことは、まず実行することが大事。“理念、ルール、スピリッツ”という原理・原則を共有、徹底し、これらを絶対的な行動判断の指針として伝えたいです。これまで私が店頭で経験してきたことから、みんなが気づいていないことにも気づきの啓発を行い、共に意識とサービスの向上につとめたいです。

人事部 人財開発グループ アシスタントマネジャー 飯嶋 聡



お客様と向き合う時、一番重要なのは、お客様の気持ち（立場）になって、自分の行動が原理・原則にもとづいているかどうかを検証し、そのポイントに気づくかどうかということ。今まで気づいていなかったこと、また、忘れていたことに、自ら気づききっかけづくりが、私たちの役割です。すべては、「お客様に満足いただきたい、感動させたい」という情熱です。情熱があれば、絶対に行動が変わるんです。

「ヒト・モノ・ウツワ」の更なる進化を進めた2003年度でありましたが、日々の行動を振り返ると、まだまだできていないことが山積みで、お客様からお叱りの言葉を頂戴することも多々あります。しかしながら、私たちは、「志」の実現のため、「掟」を守り、「魂」をこめて、全従業員が「東ねた矢」となって、基本に忠実に、当たり前前のごことを当たり前前にも愚直に実行し、「目の前のお客様大満足」を実現していきたいと思っております。



貸借対照表

(単位：千円)

期別	第14期 (2003年3月31日現在)	第15期(当期) (2004年3月31日現在)	期別	第14期 (2003年3月31日現在)	第15期(当期) (2004年3月31日現在)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	12,482,351	14,660,363	流動負債	7,753,135	7,103,795
現金及び預金	1,478,263	1,633,461	買掛金	3,081,744	3,329,967
売掛金	78,443	84,205	短期借入金	900,000	300,000
商品	7,669,415	9,570,407	1年以内返済予定の長期借入金	500,000	656,000
貯蔵品	10,344	23,646	未払金	1,455,400	938,175
前渡金	15,792	35,529	未払費用	34,149	39,548
前払費用	91,626	124,362	未払法人税等	1,118,562	1,183,863
繰延税金資産	372,260	432,603	預り金	79,033	72,231
未収入金	2,729,211	2,747,274	前受収益	4,946	9,700
その他の流動資産	36,991	8,871	賞与引当金	421,781	421,695
固定資産	8,354,543	9,465,401	未払消費税等	128,357	150,614
有形固定資産	4,232,551	5,025,052	その他の流動負債	29,159	1,999
建物	2,797,806	3,468,953	固定負債	159,567	1,418,100
構築物	3,491	6,256	長期借入金	—	1,180,000
器具備品	340,227	467,397	役員退職慰労引当金	103,651	117,139
土地	1,082,072	1,082,072	長期預り保証金	55,916	120,961
建設仮勘定	8,953	372	負債合計	7,912,703	8,521,895
無形固定資産	535,328	508,318	(資本の部)		
借地権	138,165	138,165	資本金	3,030,000	3,030,000
商標権	4,681	2,872	資本剰余金	4,095,600	4,095,600
ソフトウェア	372,186	346,985	資本準備金	4,095,600	4,095,600
電話加入権	20,294	20,294	利益剰余金	8,589,591	11,104,878
投資その他の資産	3,586,663	3,932,030	利益準備金	31,035	31,035
投資有価証券	6,775	—	当期末処分利益	8,558,556	11,073,843
従業員長期貸付金	626	406	自己株式	△ 2,791,000	△ 2,626,610
長期前払費用	376,805	384,847	資本合計	12,924,191	15,603,868
繰延税金資産	112,625	99,563	負債及び資本合計	20,836,894	24,125,764
長期差入保証金	3,089,830	3,447,213			
長期未収入金	87,400	64,676			
貸倒引当金	△ 87,400	△ 64,676			
資産合計	20,836,894	24,125,764			

POINT.1

設備投資

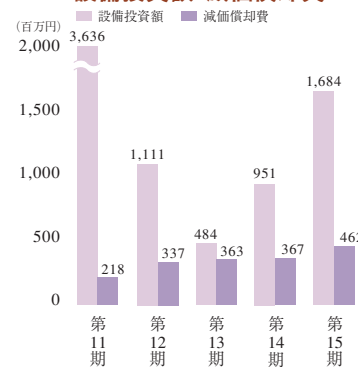
当期の設備投資の総額は1,684百万円です。その主なものは、新規出店および改装等の営業設備投資によるものです。

POINT.2

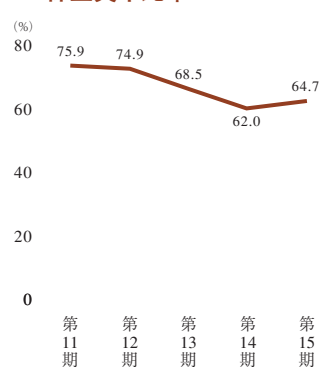
固定資産の減価償却累計額

当期末の有形固定資産の減価償却累計額は1,524百万円です。

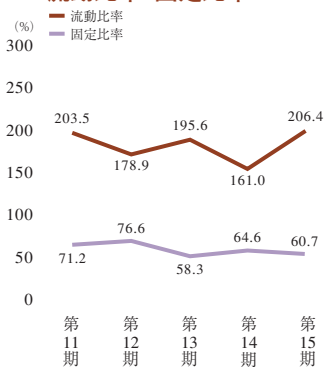
設備投資額・減価償却費



株主資本比率



流動比率・固定比率



損益計算書

(単位：千円)

期別	第14期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)	第15期(当期) (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
(経常損益の部)		
(営業損益の部)		
営業収益	35,271,577	42,903,183
営業費用	35,271,577	42,903,183
売上原価	30,447,536	37,661,936
販売費及び一般管理費	16,416,934	20,180,308
営業利益	14,030,602	17,481,627
(営業外損益の部)		
営業外収益	4,824,040	5,241,246
受取利息	113,591	157,562
替り差益	484	180
商品貸出収入	11,227	14,133
貸借収入	14,584	13,672
雑収入	60,986	93,631
営業外費用	26,308	35,944
支払利息	150,771	128,123
貸付費用	3,821	11,242
自己株式取得費用	56,631	84,371
雑損	58,109	22,376
経常利益	18,475	—
(特別損益の部)	13,732	10,133
特別利益	4,786,860	5,270,685
固定資産売却益	4,286	23,125
貸倒引当金戻入益	4,286	401
特別損失	—	22,724
固定資産売却損	290,773	265,363
固定資産除却損	4,321	8,892
貸倒引当金繰入額	143,452	253,787
投資有価証券評価損	16,300	—
サンプル商品評価損失	4,524	—
その他の特別損失	90,563	—
税引前当期純利益	31,611	2,684
法人税、住民税及び事業税	4,500,373	5,028,446
法人税等調整額	2,067,636	2,198,126
当期純利益	△ 128,876	△ 47,280
前期繰越利益	2,561,614	2,877,600
自己株式処分差損	6,080,417	8,332,527
中間配当額	—	26,917
当期末処分利益	83,475	109,367
	8,558,556	11,073,843

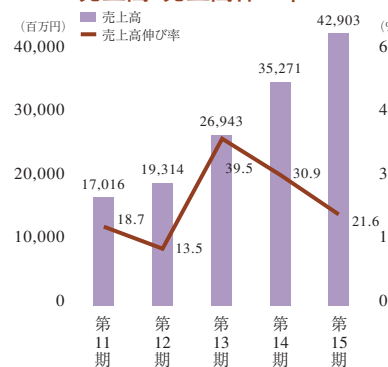
POINT.1

売上高15期連続増収&最高益更新
売上高は、前期比7,631百万円増となり、会社設立以来15期連続の増収となりました。また、経常利益、当期純利益に関しましては、前期に比べそれぞれ483百万円、315百万円の増益となり、3期連続の最高益更新となりました。

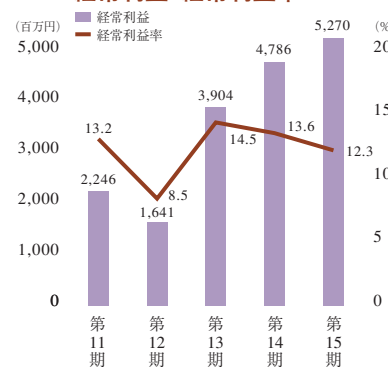
POINT.2

1株当り当期純利益
当期の1株当り当期純利益は、258.97円となりました。

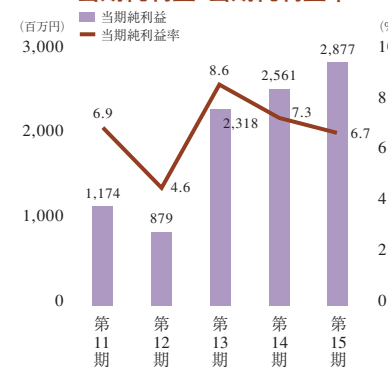
売上高・売上高伸び率



経常利益・経常利益率



当期純利益・当期純利益率





UNITED ARROWS LTD.

利益処分

(単位：円)

科 目	金 額
当期末処分利益 これを次のとおり処分します。	11,073,843,595
利益配当金 (1株につき 16円50銭)	181,234,350
取締役賞与金	43,164,000
次期繰越利益	10,849,445,245

(注) 2003年12月8日に、109,367,000円(1株につき10円)の中間配当を実施いたしました。

POINT.1

年間配当

当期末は1株当たり16円50銭の株主配当を実施いたします。中間期に実施いたしました1株当たり10円の配当を合わせ、年間配当は26円50銭となり、前期と比べ3円50銭の増配となります。



UNITED ARROWS LTD.

キャッシュ・フロー

(単位：千円)

区 分	期 別		区 分	期 別	
	第14期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)	第15期(当期) (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)		第14期 (2002年4月1日から 2003年3月31日まで)	第15期(当期) (2003年4月1日から 2004年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー			投資活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	4,500,373	5,028,446	定期預金の預入による支出	△ 10,029	△ 10,033
減価償却費	371,579	470,065	定期預金の払戻による収入	10,009	10,029
無形固定資産償却額	128,321	155,750	投資有価証券の売却による収入	—	4,091
長期前払費用償却額	44,536	53,968	有形固定資産の売却による収入	8,220	8,825
賞与引当金の増加額(△減少額)	112,977	△ 86	有形固定資産の取得による支出	△ 592,032	△ 1,649,678
役員退職慰労引当金の増加額	222	13,488	無形固定資産の取得による支出	△ 146,234	△ 213,202
貸倒引当金の増加額(△減少額)	16,300	△ 22,724	長期前払費用の取得による支出	△ 110,769	△ 103,891
受取利息及び受取配当金	△ 484	△ 180	従業員長期貸付金の減少額	489	—
投資有価証券評価損	4,524	—	長期差入保証金の増加額	△ 291,247	△ 357,382
投資有価証券売却損	—	2,684	その他投資の減少額	15,229	220
支払利息	3,821	11,242	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,116,364	△ 2,311,021
有形固定資産除却損	117,923	167,790	財務活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産売却損	4,321	8,892	短期借入金の純増減額	900,000	△ 600,000
有形固定資産売却益	△ 4,286	△ 401	長期借入金の借入れによる収入	500,000	2,000,000
無形固定資産除却損	25,528	31,084	長期借入金の返済による支出	—	△ 664,000
長期前払費用除却損	—	6,433	自己株式の取得による支出	△ 2,791,000	—
保険解約損	5,122	—	自己株式の払出による収入	—	137,472
売上債権の増加額	△ 318,523	△ 33,992	配当金の支払額	△ 255,470	△ 284,153
たな卸資産の増加額	△ 2,251,811	△ 1,914,293	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,646,470	589,319
その他流動資産の減少額(△増加額)	10,264	△ 18,620	現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
仕入債務の増加額	452,605	248,222	現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△ 2,021,890	155,193
その他流動負債の増加額(△減少額)	57,329	△ 201,016	現金及び現金同等物の期首残高	3,490,124	1,468,234
その他固定負債の増加額(△減少額)	△ 10	65,044	現金及び現金同等物の期末残高	1,468,234	1,623,427
役員賞与の支払額	△ 46,365	△ 51,229			
小計	3,234,273	4,020,569			
利息及び配当金の受取額	484	178			
利息の支払額	△ 3,821	△ 11,025			
法人税等の支払額	△ 2,489,992	△ 2,132,825			
営業活動によるキャッシュ・フロー	740,944	1,876,896			



UNITED ARROWS LTD.

株式データ

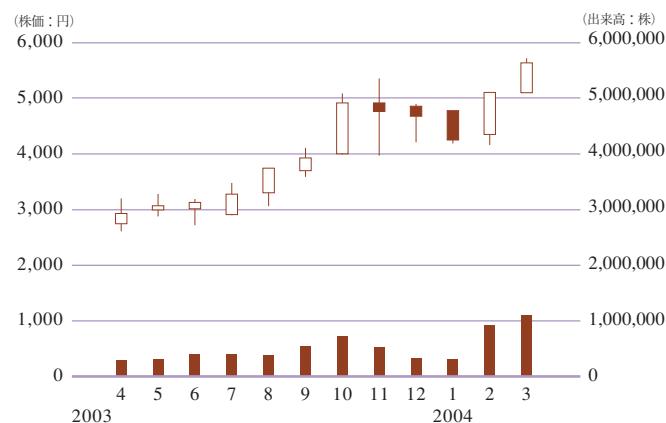
(2004年3月31日現在)

株主総数 4,453名
 会社が発行する株式総数 47,700,000株
 発行済株式総数*1 11,925,000株

大株主*2

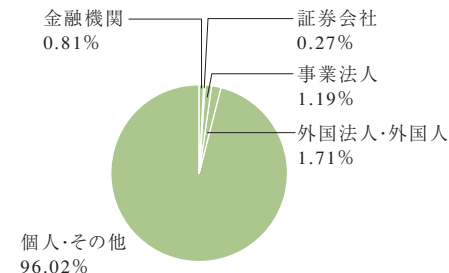
株 主 名	持 株 数	議 決 権 比 率
	株	%
重 松 理	1,100,000	10.0
日 本 マ ス タ ー ト ラ ス ト 信 託 銀 行 株 式 会 社 信 託 口	1,040,900	9.5
畑 崎 廣 敏	1,000,000	9.1
株 式 会 社 ワ ー ル ド	775,300	7.0
日 本 ト ラ ス テ イ ・ サ ー ビ ス 信 託 銀 行 株 式 会 社 信 託 口	632,400	5.7
岩 城 哲 哉	563,000	5.1
栗 野 宏 文	563,000	5.1
水 野 谷 弘 一	543,000	4.9
モ ル ガ ン ス タ ン レ ー ア ン ド カ ン パ ニ ー イ ン ク	393,000	3.5
バ ン ク オ ブ ニ ュ ー ヨ ー ク ヨ ー ロ ッ パ リ ミ テ ッ ド ル ク セ ン プ ル グ 131800	379,300	3.4

■ 株価チャート*1, 3

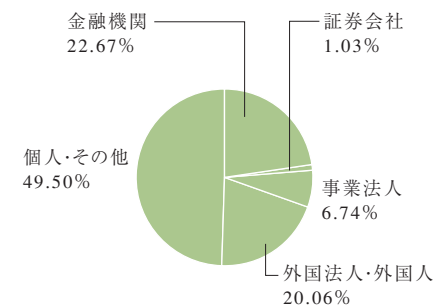


注記：1. 2004年5月20日付をもって1株を2株に株式分割し、発行済株式総数が11,925,000株増加しております。
 2. 当社が保有する自己株式941,100株は表中には含めておりません。
 3. 2004年3月の株価は、株式分割権利落ち修正後の値となっております。

■ 所有者別分布状況



■ 所有株式数別分布状況



株主メモ

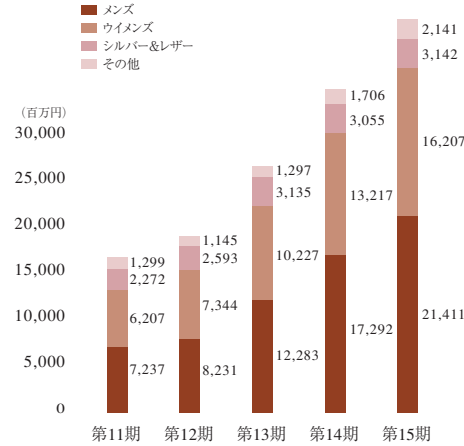
決 算 期 3月31日(年1回)
 利 益 配 当 金 3月31日
 受領株主確定日
 中間配当を行う場合は、9月30日
 定 時 株 主 総 会 6月下旬
 名義書換代理人 三菱信託銀行株式会社
 同 事 務 取 扱 場 所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
 (連 絡 先) 〒171-8508
 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-707-696(フリーダイヤル)
 同 取 次 所 三菱信託銀行株式会社 全国各支店
 公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞

※ 決算公告につきましては、貸借対照表および損益計算書を当社のホームページに掲載しております。掲載アドレスは、以下のとおりです。
<http://www.united-arrows.co.jp/ir/koukoku.html>

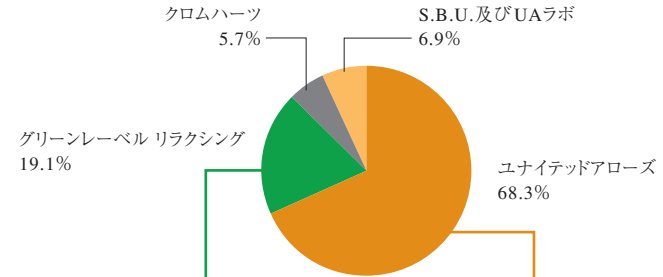


売上・店舗データ

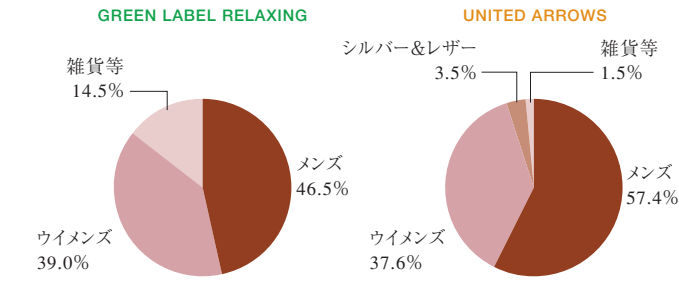
品目別売上高 *1



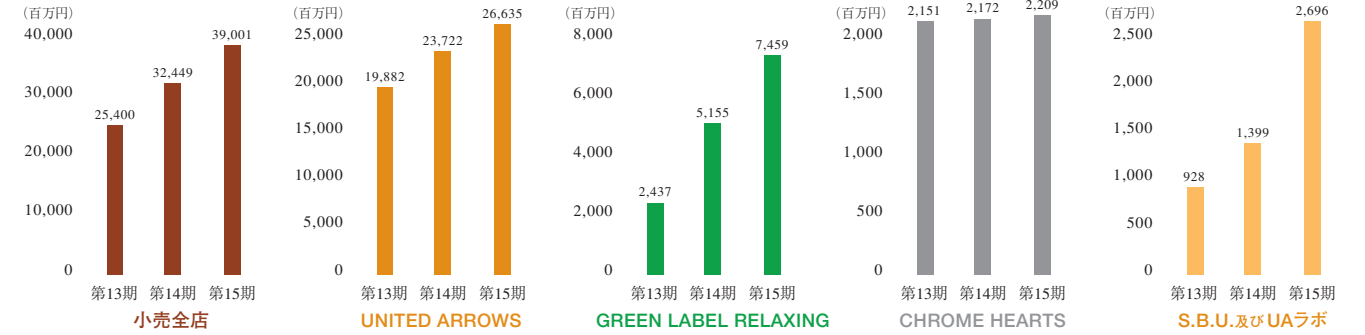
業態別売上高構成比 *2



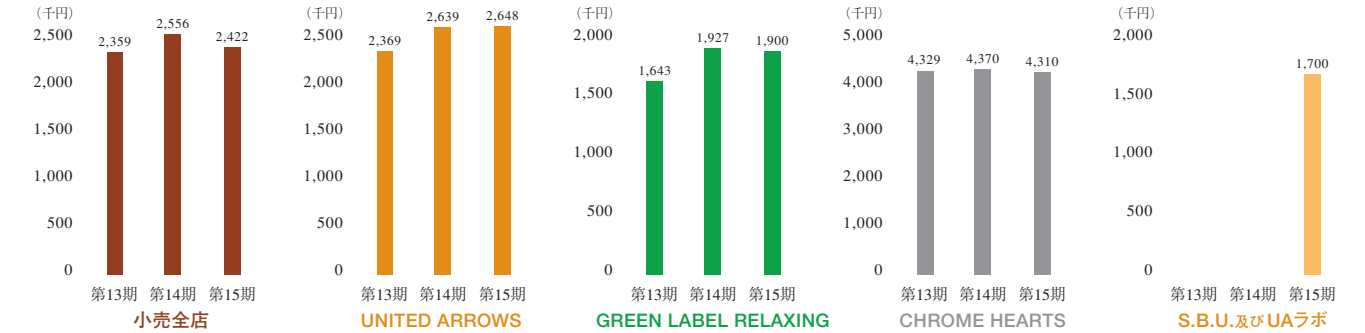
品目別売上高構成比



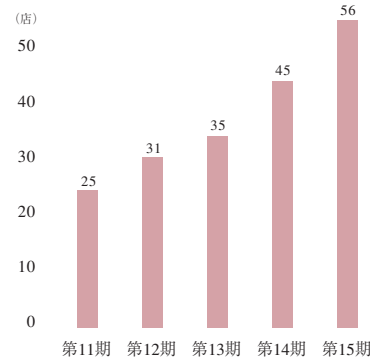
業態別売上高



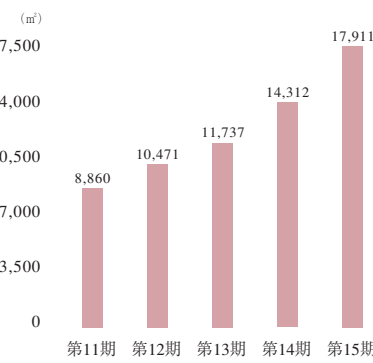
業態別1㎡当たり売上高(直営店) *1,2



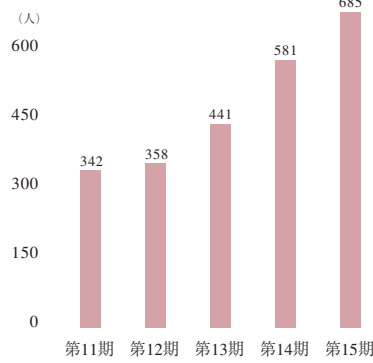
店舗数の推移



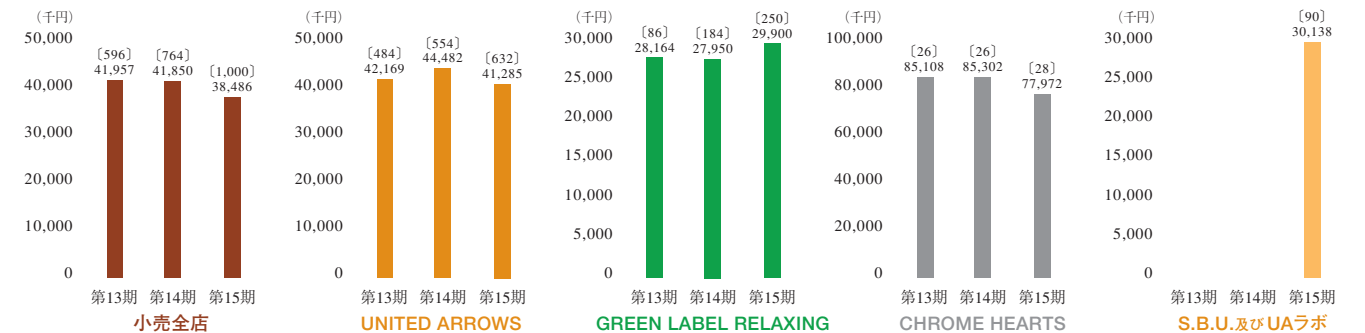
店舗売場面積の推移



従業員数の推移



業態別1人当たり売上高(直営店) *1,2



注記：1. 「その他」の売上高には、雑貨等、卸売、催事販売、カフェおよびフォーマルレンタルの売が含まれております。
 2. 当期より、「UNITED ARROWS」と「S.B.U.及びUAラボ」の売上高を区別いたしました。(S.B.U.… Small Business Unit (ANOTHER EDITION 及び THE SOVEREIGN HOUSE))

注記：1. 当期より「UNITED ARROWS」と「S.B.U.及びUAラボ」の売上高を区別いたしました。なお、当期以前は、「UNITED ARROWS」の売上高には、「S.B.U.及びUAラボ」の売上高が含まれております。(S.B.U.… Small Business Unit (ANOTHER EDITION 及び THE SOVEREIGN HOUSE))
 2. 売場面積、従業員数の計算基準は期中平均によっております。従業員数には、アルバイト(1人1日8時間換算)を含みます。



UNITED ARROWS LTD.

会社概要

(2004年3月31日現在)

商号	株式会社ユニテッドアローズ UNITED ARROWS LTD.
本社所在地	東京都渋谷区神宮前二丁目31番12号
設立	1989年10月2日
資本金	30億30百万円
代表者	重松理 (しげまつ おさむ)
従業員数	685名 (アルバイト 674名)
事業内容	紳士服・婦人服および雑貨等の企画・販売
主要取引銀行	1. UFJ銀行 2. 三井住友銀行 3. 東京三菱銀行



UNITED ARROWS LTD.

役員一覧

(2004年6月28日現在)

代表取締役会長	重松理
代表取締役社長	岩城哲哉
常務取締役	水野谷弘一
常務取締役	栗野宏文
取締役	高梨宏史
取締役	畑崎廣敏
常勤監査役	西脇良作
監査役	北川貞昭
監査役	桜木忠勝
監査役	相川光生



UNITED ARROWS LTD.

ご案内



第6回(2003年度)ディベロッパーが選ぶテナント大賞受賞のお知らせ

当社は、織研新聞社が主催する「第6回ディベロッパーが選ぶテナント大賞」においてテナント大賞、ベストセラー賞、プロポーズ賞を受賞いたしました。なお、テナント大賞につきましては、第1回、第4回に続き、3度目の受賞、ベストセラー賞、プロポーズ賞は、昨年に引き続き2年連続の受賞となりました。

第8回(2003年度)IR優良企業賞受賞のお知らせ

当社は、昨年の「IR優良企業奨励賞」受賞に引き続き、日本インベスター・リレーションズ協会が選定する「第8回IR優良企業賞」において「IR優良企業賞」を受賞いたしました。今後も、当社に関わるすべてのステークホルダーの価値最大化を目標に、“公平でタイムリーな、透明性の高い、そしてわかりやすい”というIRポリシーに基づき、更なるIR活動の充実に努めてまいります。

グリーンレーベルリラクシングの広告コピーが本になりました。

グリーンレーベルリラクシングで行ってきた広告シリーズのコピーがまとめて本になりました。まだまだ歴史は浅いですが、ちょっとしたグリーンレーベルリラクシングの歴史本です。(作者：一倉宏さん 絵の挿入、装丁：葛西薫さん)



株主優待券について

同封の株主優待券には、有効期限がございます。(有効期限：2005年6月30日まで)ご確認のうえ、是非、期限内にご利用いただきますようお願い申し上げます。優待券のご利用可能店舗等の詳細につきましては、当社HPにて掲載してございます。(なお、2003年6月配布の株主優待券は、有効期限が2004年6月30日までとなっております。)

『IRお知らせメール』配信中



ご希望の投資家様宛に、毎月の月次概況、各種プレスリリース等をメール配信しております。配信ご希望の登録は、当社HPにて受付しております。

【IRお知らせメール】に関するご案内は、
<http://www.united-arrows.co.jp/ir/oshirase.html>
をご覧ください。

- IR情報ページ <http://www.united-arrows.co.jp/ir/>
- 決算公告
- IRイベント 決算説明会申込み受付 (開催約1ヶ月前から開始)
- 月次概況 速報：毎月第2平日 確報：毎月第7平日 (両日15:30以降に更新)
- よくあるご質問 株主優待制度について等

新店情報

- ユナイテッドアローズ ブルーレーベルストア 原宿店増床リニューアル
- ユナイテッドアローズ 梅田店増床
- ユナイテッドアローズ 日本橋店オープン
- ユナイテッドアローズ グリーンレーベル リラクシング 難波店オープン
- ユナイテッドアローズ グリーンレーベル リラクシング 北千住店オープン
- ユナイテッドアローズ グリーンレーベル リラクシング 静岡店オープン

■ ユナイテッドアローズ ホームページ アドレス

<http://www.united-arrows.co.jp/>

本誌内容に関することは、当社管理本部 IR・広報グループにお問い合わせください。
tel.03-6418-0845 e-mail:IR@united-arrows.co.jp



古紙配合率100%再生紙を使用
本事業報告書は、環境にやさしい大豆インキと、再生紙を使用しております。